

月 日 直日

地域と
ともにある
学校づくり

伊賀市教育委員会
学校教育課



国・県がめざしているもの

【めざす姿】

保護者や地域の方々が学校運営に参画し、**学校・家庭・地域が一体となった教育活動**が進むとともに、地域の特色や資源を生かした教育が行われることにより、地域全体で子どもたちの学びと育ちを支える体制が整っています。

「三重県教育ビジョン」（三重県教育委員会；令和6年）から

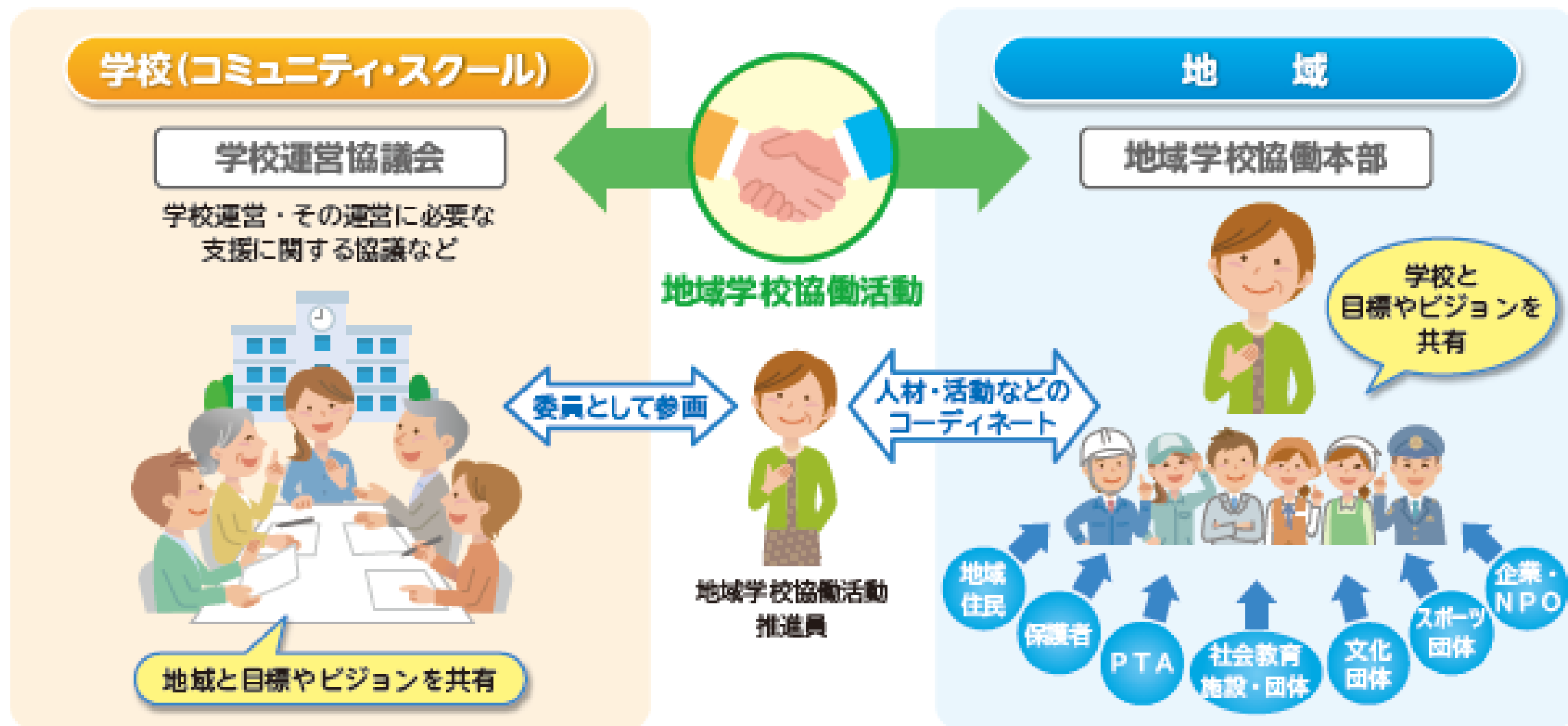
伊賀市がめざしているもの

【めざす姿】

学びを通じた**人づくり・つながりづくり・地域づくり**の実現

「第3次伊賀市生涯学習推進指針」（伊賀市教育委員会；令和8年2月）から

「地域とともにある学校づくり」 「学校を核とした地域づくり」



「これからの地域と学校」 (文部科学省；令和2年3月) から

現在、市内すべての幼小中学校で導入している学校運営協議会では、保護者や地域の方々が学校運営に参画し、学校運営の基本方針を承認したり、学校運営に意見したりしている。このことを通じて、育みたい子ども像・めざすべき教育のビジョンを共有し、地域ならではの特色を生かした「**地域とともにある学校づくり**」に取り組んでいる。

また、地域が願う子ども像についても、学校とより一層共有を図りながら「**学校を核とした地域づくり**」をめざして、学校と地域がパートナーとして、さらに連携・協働していけるよう努めている。



★市内小学校の事例【学校が地域に依頼】

- 読み聞かせ、家庭科（ミシン・調理実習・手芸）
- 田植え・稲刈り体験、昔遊び体験、太鼓
- 学年別地域交流活動（ハンドベル・ドローン体験・絵手紙・ゲートボール）
- 地域の方をお招きしての講話、手話、着衣水泳、平和教育、キャリア教育
- 環境整備作業、登下校の見守り、リサイクル事業

★市内小学校の事例【地域から学校に依頼】

- 市民センター主催のミニ図書館
- 地域の夏祭り・秋祭り、文化祭（作品の出展等含む）、クリスマス会
- 地域の防災訓練、清掃活動、防犯パトロール
- こども食堂、学習支援
- 自転車乗り方教室、木工教室、しめ縄教室
- さつまいも植えと収穫と焼き芋
- 夏休みの居場所（クリーンシェルター）

★市内中学校の事例【学校が地域に依頼】

- 学習・行事支援、部活動支援、面接指導支援
- 地域の方をお招きしての講話、職場体験学習支援
- 防災教育、平和教育、ヒューマンフェスタ
- 家庭支援、子どもの居場所づくり支援
- 環境整備作業、登下校の見守り、リサイクル事業

★市内中学校の事例【地域から学校へ依頼】

- 地域行事への参加、文化祭、郷土教育
- 地域の防災訓練への参画
- 防犯パトロール（防犯ネットワークとして）

11月11日、各学校の校長と学校運営協議会委員が参加する研修会で、成和東小学校、青山小学校が実践を発表。

それぞれの地域で「地域の良いところ・誇れるところ」を知ることが「**地域を好きになる子ども**」を育てることにつながる。

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」をあわせて実現できるように、そして、「子どもたちのために」と「地域のために」が、子ども・大人両方の**学びの場**であり、**交流の場**であり、**見守りの場**であるために、子どもも大人も「楽しむ」ことが、持続可能な取組みへとつながる。

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現に向けて

◆なぜ今、**コミュニティ・スクール**と**地域学校協働活動**が必要なのか？

背景 時代の変化に伴い学校と地域の在り方が変化

◆教育環境を取り巻く状況

- 児童生徒数の減少
- 子供の規範意識等への課題
- 学校が抱える課題の複雑化・困難化

◆社会の動向

- 少子高齢化の進行
- グローバル化や情報化の進展
- 地域社会のつながりや支え合いの希薄化による地域の教育力の低下

◆教育改革の動き

- 「社会に開かれた教育課程」の実現など

◆地方創生の動き

- 学校を核とした地域の活性化

求められるものとは・・・

- ◆これからの時代を生き抜く力の育成（学校だけでは得られない知識・経験・能力）
- ◆地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換

学校と地域の連携・協働が必要

具体的な取組として・・・

コミュニティ・スクール

×

地域学校協働活動

『目標』や『ビジョン』
の共有

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を併せて実現！

「これからの地域と学校」(文部科学省；令和2年3月)から

さらなる活動の充実に向けて

現在、全幼小中学校に学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールとして「**地域とともにある学校づくり**」に取り組んでいる。今後さらに、学校が地域の教育の一主体として、保護者や地域住民・団体と対等な協働関係をつくっていく必要がある。

学校が「育てたい子ども像」に向けて地域に協力をお願いするばかりではなく、子どもたちに対する地域の願いや思いを共有して活動することで、お互いの負担感をなくし、どちらも「元気になる」活動（＝持続可能）を作り出していくことが重要である。

伊賀市として、今後さらに「**地域とともにある学校づくり**」「**学校を核とした地域づくり**」を進めていきたい。